

除草剤専用展着剤サーファクタント30の加用による

クリンチャーEWのノビエ防除効果の安定化

宮城県古川農業試験場

1 取り上げた理由

水稻除草剤のうち、主要なノビエ対策剤であるクリンチャーEW（シハロホップブチル乳剤）は展着剤の加用が効果安定化のため推奨されているが、これまで展着剤について十分な検討は行われていない。除草剤専用の展着剤として開発されたサーファクタント30（ポリオキシエチレンドデシルエーテル:30%；丸和バイオケミカル株式会社）について検討したところ、展着剤サーファクタント30を加用することで、5葉期を超えたノビエに対するクリンチャーEWの抑草効果の向上・安定化が確認されたので普及情報とする。

2 普及情報

1) 4～6葉期のノビエにクリンチャーEWを散布すると、7日後までに、ノビエの展開中の新葉（6葉・7葉）が黄化と共に完全展開葉（5葉・6葉）が褐変し、14日後までに、新葉も含めて褐変が広がり枯死に至る。サーファクタント30の加用によりこの過程が早まり（図2）、特に、新葉の進展が強く抑制される（図3）。

2) クリンチャーEWの散布後26日までのノビエに対する抑制効果は、サーファクタント30加用により高まり、少水量（25L/10a）よりも標準水量（100L/10a）散布でより効果が高まる（図1）。

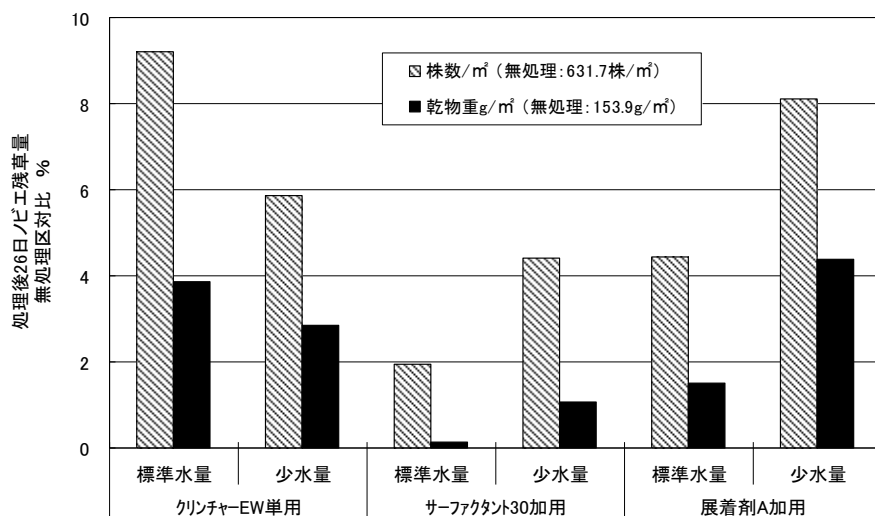


図1 処理後26日目におけるノビエ残草量

注1) 処理条件は図2脚注のとおり。

注2) 値は2反復の平均値

注3) 無処理区は30cm×1m、その他は120cm×1.8mについて抜き取り調査した。

3 利活用の留意点

1) 散布時の落水の影響によりイネの葉鞘に黄化症状が現れることがあるが、展着剤の加用によるこの症状の助長やイネの生育への影響は認められない。

2) サーファクタント30は散布水量10Lあたり10～30mlを添加する。

3) 除草剤専用展着剤であり、殺菌剤や殺虫剤等の他の農薬には使用できない。また、クリンチャーEW以外の水稻用茎葉処理除草剤の大部分は展着剤の加用が不要であり、展着剤の加用により薬害が助長される剤もあるので注意が必要である。

4) 参考価格：¥741/500ml，¥358/100ml（平成26年1月現在）

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新資材・生育調整剤及び雑草防除に関する試験 (平成24年度)

2) 参考データ

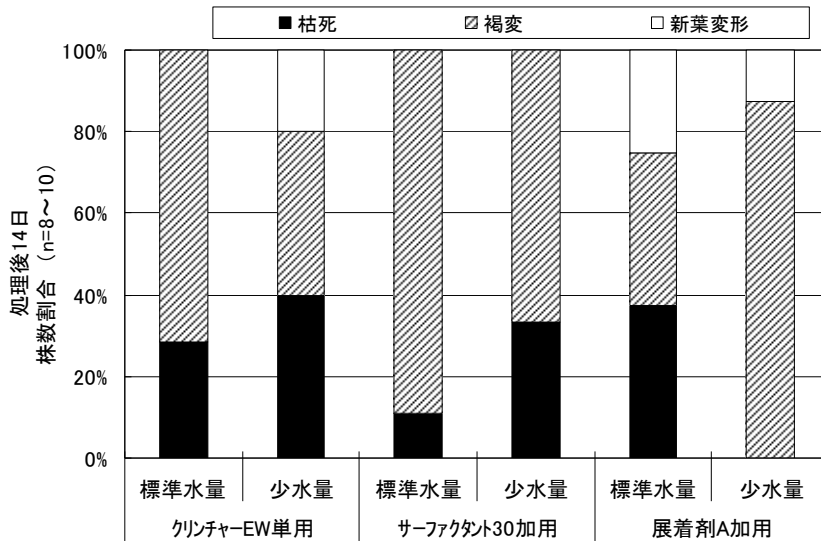


図2 処理後14日目におけるノビエの症状別の株数割合

注1) 平成24年5月11日播種の湛水直播圃場での試験。播種後出芽始めまで落水管理。6月7日イネ：平均2.2葉期、ノビエ：最大5.9葉期に落水し、電動加圧噴霧器にて雑草茎葉に均一に散布した。ノビエは大部分がタイヌビエである。処理時4.8~5.9葉期の標識株(各反復4~5株)

注2) 標準水量は100L/10a、少水量は25L/10aを散布水量とした。クリンチャー-EWは全て100ml/10a、サーファクタント30は水量の1/1,000、展着剤A(ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル30%)は1/10,000の量の農薬登録上の下限量を添加した。

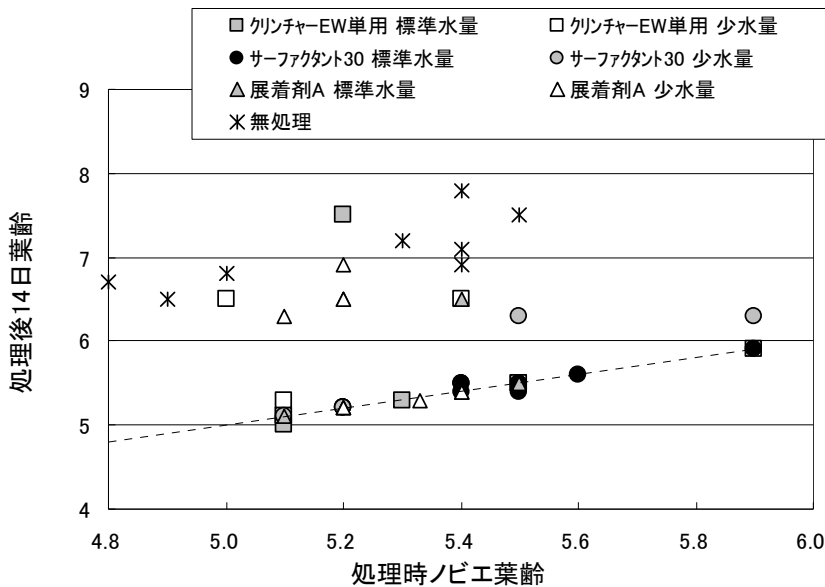


図3 ノビエの処理時葉齢と処理後14日葉齢との関係

注1) 図1と同一試験。破線は1:1(処理時=観察時)を示す。
 注2) 処理条件は図1脚注のとおり。

3) 発表論文等 なし